

報道関係者各位

2010年9月6日  
株式会社アサヒコーポレーション



健康志向の方々必見！ひざの健康サポートする「ハンドブック」が完成！！

# 「ひざのハンドブック」のご紹介

-Presented by ASAHI SHOES-

ひざの健康をサポートするシューズメーカー株式会社アサヒコーポレーション(本社:福岡県久留米市、代表取締役社長 坂本健児)は、世界初！ひざのトラブルを予防する[SHM®機能]を搭載したウォーキングシューズ「アサヒメディカルウォーク」のプロモーションの一環として、この度、ひざに関するハンドブック「ひざのハンドブック」を制作いたしました。

本ハンドブックでは、ひざにまつわる様々な情報を紹介しております。さらに、「アサヒメディカルウォーク」の開発秘話や、アサヒコーポレーションの歴史など、内容満載の一冊となっております。

今回は、ハンドブックの完成を記念して、抜粋版をお届けするとともにご紹介させていただきます。

—以下「ひざのハンドブック」抜粋—

## Part 0

### まずはウォーキングの効果をおさらい

#### 専門家の声 / ウォーキングの健康効果

- 免疫力がアップ
- 筋力がつく
- 体温アップ、冷え解消
- 体重コントロール、メタボ解消
- リラックスできる
- 脳が活性化する
- 心肺機能が高まる
- コレステロール、中性脂肪が低下
- 骨粗しょう症を予防

日本ウォーキングセラピスト協会代表理事 長坂靖子先生

「いつでもどこでもできるウォーキングは、健康づくりの決め手です。正しい歩き方をすれば、日常のウォーキングで、病気になるににくい体を手に入れます。また、ご自分の体調や目的に合わせて運動強度を変えられるので、あらゆる年齢の方におすすめできます」



## Part 1

### 今、日本人の歩き方がピンチ！

- ◎現状①歩く「距離」が減っている
- ◎現状②歩く「フォーム」がおかしい
- ◎現状③ひざのトラブルが増えている！

福山女学園大学 人間関係学部助教授 山根一郎 先生

「現代の日本人は、洋式歩行と和式歩行が中途半端にミックスした、逆にいえばどちらからも理想的でない歩容になっています。必要なのは両方の歩行をきちんと身につけ、服装・履物によってきちんと使い分けることです」



©2007年福山人間学研究所、山根一郎先生「日本人の歩き方」より



Part 2

ひざのトラブルってどんなもの？

- ◎あなたもひざトラブル予備軍かも？まずはひざ年齢をチェック
- ◎ひざトラブルを予防するために知っておきたい「ひざのメカニズム」
- ◎ひざの痛み予防は要介護リスクも減らす
- ◎ひざトラブル予防法

ロコモティブシンドロームとは？

おもに加齢によって、骨、関節、筋肉などの運動器の働きが衰えると、移動能力が低下するなど暮らしの中の自立度が低下し、介護が必要になったり、寝たきりになる可能性が高くなります。運動器の障害のために、要介護になったり、要介護になる危険の高い状態が「ロコモティブシンドローム(運動器症候群)」です。



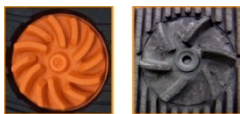
ひざの正常な回旋運動 =  
Screw Home Movement  
スクリュー・ホーム・ムーブメント (SHM)

Part 3

世界初！ SHM機能で「ひざのトラブルを予防する靴」とは？

「アサヒメディカルウォーク」はこうして生まれた

2000年にアサヒコーポレーションが発売した高齢者・介護向けの健康シューズ「快歩主義」の開発に関わったとき、高齢者のひざトラブルの多さを知ったという塚本さん。まさかその2年後に、自分が変形性ひざ関節症と診断されるとは思いもなかったそうです。「自分は足腰も強い方だし、ひざのトラブルなんて青天の霹靂。風呂の中でも正座ができなくなり、一度は手術まで申し込みました。そこで以前から漠然と抱いていた『ひざ』というテーマを、より具体的に意識するようになったんです」



完成品

試作品



(株) アサヒコーポレーション  
塚本裕二さん  
「アサヒメディカルウォーク」の元研究開発リーダー。現在はブランドマネージャーとして、全国各地で販売者講習会の指導などにあたる。

「メディカルウォーク」解体新書

産・学・医の知恵が集結した「ひざを守る」機能がぎゅーしり！

**世界初！ SHM機能**  
特許取得(日本、韓国)  
各商社社販中

**SHM**

①ひざ関節を守る理想的な歩行を実現  
着地時に踏み込んでいくとひざがやや外側に回旋。ひざ関節をコントロールして、安定感がある。ひざにやさしい歩き方に導きます。

②ひざへの衝撃を分散吸収  
着地時の衝撃を土間の弾力で吸収。さらに着地時にスクリー部のフィンがたわむことで衝撃が「回転力」に変換され、ひざへの負担を軽減します。なおスクリー構造は着地時にひざの回旋を促すもので、スクリー構造自体は回旋しません。

③ひざを安定させるもの内側の筋肉を有効活用  
歩行時にひざを安定させる筋肉を働かせる。ももの内側の筋肉を有効に働かせ、解さることができず。

④足底対応  
かかと部分の粘着材に対応したモデルも登場。当然、スクリー部分だけを交換するというアイデアもありましたが、スクリーよりもスクリー周辺の靴底の摩擦が強いので、まずはかかとと交換する形に(技術開発リーダー・山崎さん)

⑤履いて多くと最初はももの内側の筋力が弱くなる場合があります。これはSHM機能により、ひざが正しく回旋していることによるものです。

フットグラフィアーラスト(木型)  
アサヒ独自の足型測定器「フットグラフィアー」を使って正確に測定されたデータを基に作られたラスト(木型)。「ウォーキングシューズの典型であるオブリクックの形状には入るが、いわゆるオブリクックとはちょっと違う。特徴のある履きやすい形ができたと思います(ラスト担当・井手さん)」

メディカルウォークのオリジナルラスト(木型)

足型測定器「フットグラフィアー」

FootGraphers

## Part 4

# アサヒメディカルウォークを生んだ アサヒコーポレーションってどんな会社？

「快適」な靴で「健康」を足元からサポート。靴を通じて日本の健康づくりに貢献します

## The Shoes of Japan

1998年以降は特に、『靴を通じて日本の健康づくりに貢献』することを企業理念に定め、健康へのこだわりをもった商品を主軸に据えてきました。「足は第二の心臓」と言われるように、歩くということは血液を足の先から脳まで押し上げる大事な運動です。健康と靴の関わりを追究すればするほど、健康における靴の意義を日々再認識しています。



(株)アサヒコーポレーション  
執行役員  
井上重治さん



久留米本社社屋(左)と久留米工場(右)。  
海外からの輸入が多い靴メーカーの中で、アサヒコーポレーションは現在でも40%近くの商品を久留米工場で生産している。

## 和製スニーカーメーカーの歴史



1911年(明治44年)、当時九州に1台しかなかった自動車を広告宣伝に使い、多大な効果を上げました。



履物史上の革命といわれる「貼付式地下足袋」を1922年(大正11年)に発明(実用新案特許)。



当時(1984年)、日本のスターをおさえて人気ナンバー1だったジャッキーチェーンをキャンペーンに起用。

### ■「アサヒメディカルウォーク」とは

アサヒメディカルウォークは2006年より販売を開始した同社のメインブランドのひとつです。1000万人以上の人々が悩まされる“変形性ひざ関節症”。アサヒメディカルウォークはひざのトラブルを予防するため、「産」「学」「医」の共同開発により誕生しました。踵部に設置された[SHM®機能]のスクリュー構造が着地時の体重圧でたわみ、つま先をやや外側へ回旋させます。[SHM®機能]は、膝関節の動きをコントロールし、安定感のある優しい歩き方へ導きます。

### ■「アサヒコーポレーション」とは

- 社名：株式会社アサヒコーポレーション(英字表記: ASAHI Corporation CO.,LTD.)
- 本社：福岡県久留米市洗町1番地
- 代表者：代表取締役社長 坂本 健児
- 創業日：1892年
- 資本金：8億4千万円
- 年商：239億円(2008年12月期)
- 従業員数：1,028名(2008年12月末現在)
- 事業内容：ゴム履物・革靴の製造、販売

本件に関するお問い合わせ先

アサヒメディカルウォークPR事務局 (株式会社プラチナム内) 担当: 中村・肖(しょう)・牧野  
TEL: 03-5572-6073 FAX: 03-5572-6075 Mail: [asahi-shoes@platinuminc.jp](mailto:asahi-shoes@platinuminc.jp)